



伝え方が9割



理事 橋本 富明

10年ほど前の話、私がまだ50代の半ば、職員の結婚式の主賓の挨拶を頼まれた。最近は何っきり減ったが、当時は普通に年に2度くらいは式に呼ばれて挨拶を頼まれた。式の前日、家でラーメンを作りながら、明日の挨拶は何を話そうかと考えていた。そもそも人前で話すことは歯医者に行くくらい苦手である。ラーメンに唯一ネギがあったので刻んだ。私はネギが好物なのでなんにでもネギを入れる。ラーメンの具にもいろいろあるが、どんなラーメンにもネギは欠かすことが出来ない。ここでネギと新婦がつながった。つまり「新婦はどこのクラスを受け持ってもどんな行事でもネギの様に一味変えて存在感を表すのだよ、保育園になくってはならない人」という誉め言葉を思いつき、あーこれで明日の準備はばっちりだと安心してラーメンを啜ったのである。さて当日、都内ホテルの式場、新郎さんは関西有名大学ラグビー部、円卓には屈強な若者たちがテーブルを囲んでいた。いよいよ私の番、震える手でマイクを持ちながら「えーと彼女はすごく働きものでありまして・ラーメンの具でいえばネギのような存在でありまして…」何となく会場の雰囲気やしんとした感じがしてあとはよく覚えていない。ご両親にお酒を注ぎに行ったときに何となくよそよそしかったのは、大切な娘をネギに例えやがって・ということであるに違いない。せめてナルトにしとけばよかったか…。その事件は以後、私の心の中に棘のように残り、時ならぬときに蘇ってくる。しかし、新婦はそのようなことは全く気に留めず、めでたく子宝に恵まれ明るく元気に暮らしている。

ところがである。昨日の読売新聞から「ネギになりたい」という文章が飛び込んできた。タレントの「ふかわりょう」さんが今後の抱負に「僕はネギになりたい」「その心は?」「ラーメンにかけても豆腐にかけても素材が生かされ、引き立つから」。これだ!! 僕の気持ちとおんなじ奴がいた! あの時こう言えば皆に伝わったんだろうな、披露宴で緊張のあまり「ラーメンの具の中でネギが一番好きです」的ニュアンスに終わったことをいまさらながら反省するのである。伝え方が9割。

先週やっと卒園式が終わったが、ついに私の街の近くまでコロナがやって来た。コロナが蔓延したら、保育園が休園になったら、国や自治体から保育園に運営費や補助金は支払われるの? 休んだ分は有給休暇? 賃金補償はしてくれるの? 国の8,330円の休業補償最低賃金? 給食はどうなるの? マスクも消毒薬もなくしてどーすんの? 職員も保育園ももう在庫は底をついていますけど。会報誌が出る6月にはどんな状況になっているのだろうか。

でも僕がコロナで一番恐れるのは保護者との関係悪化である。あらゆる行事中止、37.5度あれば休園、その後24時間は自宅待機、親の発熱も休園、次から次へ保育園から保護者へ協力要請メールが届く。保育園(国)の要請と保護者の利益は最終目標が同じでも現状は利益相反なのである。例え戒厳令下であっても、ここは様々な家庭の事情を抱える保護者の立場に立ち、注意深く正論を言わないといけない。現場の臨機対応が必要である。保育園と保護者との信頼関係が壊れる方が、場合によってはコロナより怖い。ここも伝え方が9割である。